

# いのち 生命の力が輝く時 ～その8～

※プライバシー保護のため、事実と少し変えています。

やりたいことがあるから変わろうとする子どもがいる。  
 どうにかしたいから、今できることから始める子どもがいる。  
 一方で、ひたすら眠り続けて壊れそうな自分を守る子どもがいる。  
 今の自分を認める子どもは、必ず生命の力を発揮する…。

■ナオミさん（仮名）は、親の期待を裏切らないために、無理して学校に行っていました。だからといって、両親が厳しかったわけではありません。

当時をふりかえって、ナオミさんは「あの時（小中学校の時）は、大人が求める自分になるために必死でした。逃げてはいけなかったと思っていました。でも、高校に入って結局、力が尽きてしまい…。親も先生も『無理しなくて良いよ』って言うてくれたけど、休んだら学校に行けなくなりそうで怖かったです。」と思いを語ってくれました。

ナオミさんは高校を辞めてひきこもりました。友だちとも疎遠になり、外に出ることもできなくなりました。好きなアニメを見て1日を過ごしました。やがて夕方から、ネットゲームに没頭しました。1日10時間する生活を始めました。「私はひきこもったことで、やっと立ち止まって自分の心の声を聞くようになったと思います。世間はネットゲームを良くないことのように言いますが、私にとっては居場所でした。ネットゲームって毒にもなるけど、薬にもなります」と教えてくれました。

数年間のつきあいになるネットゲームの仲間の中には、ナオミさんと同じような人や、働いている人や、もっと厳しい状況の人がいるらしいのです。ゲームをしながら話をすることで、逃げることはそんなに悪くないのではないかと思えてきたそうです。今は、バイトをしながら通信制高校に通っています。

通っています。

■アキラ君（仮名）は中学2年生の時に不登校になり、人の目が怖くなりました。高校進学をしましたが4日で登校できなくなりました。

ひたすらゲームをする2年間のひきこもり生活をした後、ひきこもりの青年たちの「集まり」に参加するようになりました。きっかけは、ちょっと変わったおじさんの1本の電話です。

やがて、スーパーの品出しのアルバイトを始めましたが、2週間程で辞めたくなくなりました。「集まり」でバイトの辞め方を相談しました。

その後、ボランティアに興味をもちました。そこで知り合った人に仕事を紹介してもらい、週5日の仕事に就きました。もう2年間続けています。

将来は大学か専門学校に行きたいので「高卒認定試験」を受けることにしました。友人や知り合いに教えてもらいながら、合格しました。

アキラ君は「マイナーな不登校はボクに似合っている。不登校はボクの性格の一部。」と言います。

ネットゲームの仲間も「集まり」の仲間も、本人にとっては大きな存在だったと言えます。親や教師ではなく、斜めの関係の人だからこそ、「自分の心の声」が聞こえ、自己理解が深まったのでしょう。不登校・ひきこもりは、人のまなざしになによりも力になると言えます。

## 「新学習指導要領」に見る不登校の支援の留意点

「教育機会確保法」をうけて、小学校学習指導要領解説書の「総則編」（118ページ～119ページ）には、不登校の子どもを支援する時の留意点が書かれています。（中学校学習指導要領は113～114ページ）その内容は、子どもの立場に立つすばらしい言葉がたくさんあります。ピックアップしてまとめてみました。

- ①その行為（不登校）を「問題行動」と判断してはならない。
- ②不登校児童が悪いという根強い偏見を払拭し、学校・家庭・社会が不登校生徒に寄り添い共感的理解と受容の姿勢をもつことが、児童の自己肯定感を高めるためにも重要である。
- ③登校という結果のみを目標にするのではなく、児童や保護者の意思を十分に尊重しつつ、児童が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある。
- ④不登校児童の状況によっては休養が必要な場合があることも留意しつつ、学校以外の多様な適切な学習活動の重要性も踏まえ、個々の状況に応じた学習活動等が行われるよう支援することが必要である。例えば、いじめられている児童の緊急避難としての欠席が弾力的に認められてもよく、そのような場合には、その後の学習に支障がないように配慮する必要がある。
- ⑤不登校児童の保護者に対し、不登校児童へ

の支援を行う機関や保護者の会などに関する情報提供及び指導要録上の出席扱いや通学定期乗車券の取扱等を周知することも重要である。  
 ⑦不登校児童が自らの意思で登校した場合は、温かい雰囲気迎え入れられるよう配慮するとともに、保健室、相談室や学校図書館等も活用しつつ、安心して学校生活を送ることができるような支援を行うことが重要である。

## 「未来を強くする子育てプロジェクト」でスミセイ未来賞を受賞



大分市「星の会」スミセイ未来賞 不登校対策に尽力

【東京支社】子育て支援に取り組む団体・個人を表彰する「第11回未来を強くする子育てプロジェクト」（住友生命保険主催）の表彰式が12日、東京・日本橋のホールであり、不登校を考える親の会「星の会」(加嶋文哉代表・大分市)がスミセイ未来賞に選ばれた。副賞の50万円は講演会の開催など活動資金に充てるといふ。

プロジェクトは同社の社会貢献活動の一環。全国から231組の応募があり、スミセイ未来大賞に2組、同未来賞に10組を選出した。表彰式で橋本雅博社長が「子どもたちの笑顔があふれる社会づくりに向けた活動を、今後も応援したい」とあいさつし、受賞団体の代表らにトロフィーや盾を手渡した。

「星の会」は1994年に設立。県内5カ所毎月例会を開き、サポートを続けている。加嶋代表は「活動が認められ、光栄。不登校対策も変化している。さらに力を入れたい」と話した。

トロフィーを受け取る星の会の加嶋文哉代表(右端)

2018年3月13日付け 大分合同新聞朝刊



おねがい

### 原稿をお寄せ下さい

- 感想・体験 ●伝えたい情報
  - その他不登校に関すること
- <メール> toiwase@hoshinokai.net  
 <FAX> 097-576-9489

原稿は、FAXかメールでお寄せ下さい。掲載の際に匿名・イニシャルなど希望する場合は、そのことを書き添えて下さい。

### ご寄付のお願い

活動を継続・発展させていくために寄付や切手等の寄贈をお願いしています。力をかけて下さい。尚、寄付・寄贈していただいた方は会報で紹介させていただきます。

郵便振替

<口座記号番号> 01710-8-142651  
 <加入者名> 不登校を考える星の会

### 5月の例会予定

- 昼の大分例会…都合でお休みです
- 別府例会…都合でお休みです
- 豊後大野例会…5月10日(木)19:00～21:00
- 津久見例会…5月11日(金)19:30～22:00
- 夜の大分例会…5月18日(金)19:00～21:30
- 湯布院例会…5月24日(木)19:30～21:30

会報発送のボランティアを募集しています。協力していただける方は河野さんまで連絡をください。

### 会報発送作業

- 日時：4月26日(木)14:00～
- 場所：明治明野公民館和室
- お尋ねは河野さん (080-5272-9360) まで